



HPはこちら

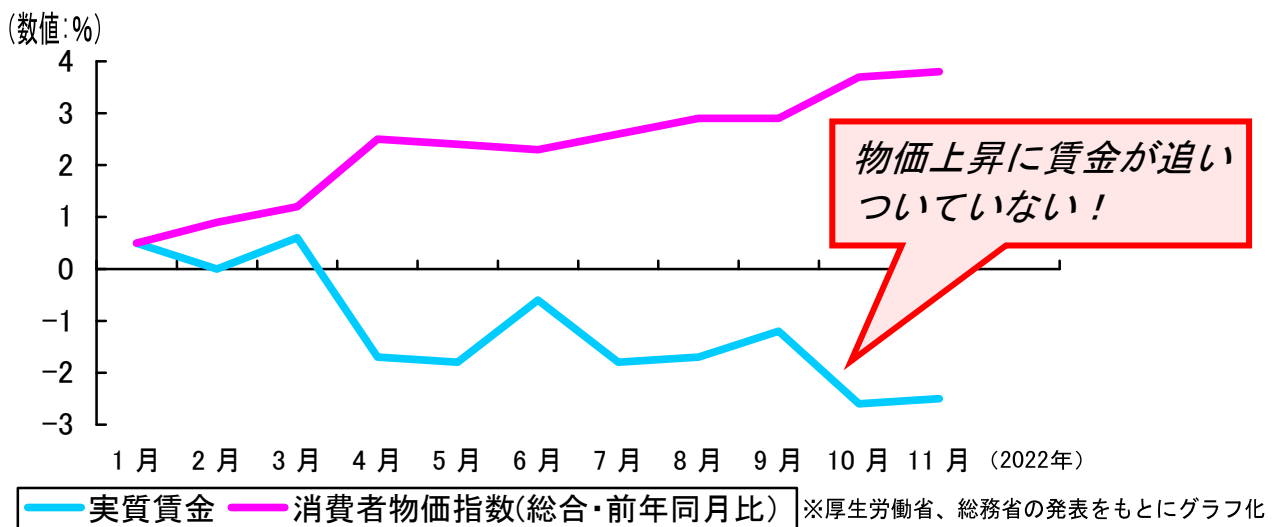
## 2023春闘シリーズ③



# 相次ぐ物価上昇により 実質賃金は下がり続けている

実質賃金が昨年4月以降、8ヶ月連続でマイナスとなっています。厚生労働省が2022年11月の一人当たりの現金給与額などを示す「毎月勤労統計」を発表しましたが、実質賃金は2021年の同月より2.5%減少となっており、物価上昇のペースに賃金が追いつかない実態が鮮明になっています。

一方の消費者物価指数（商品価格の平均的な動きを測定したもの）は原油高や円安の影響などで右肩上がりになっており、2022年12月の数値は4.0%の上昇で41年ぶりの高水準となっています。



## 家計負担額は年間96,000円増！ 🍷🍷 2023年は+40,000円の予想

### ◆実質賃金とは？

例えば毎月20万円の給料をもらっていて物価が3%上がった場合、これまで20万円で購入できた物が20万6千円出さないと買えないこととなります。給料の額面は同じく20万円で減らされていませんが、これまで購入できた物が買えなくなってしまいました。このことは「お金の価値が下がった」→「実質的に賃金が減った」ということになり、生活水準が低下（悪化）するということです。

## 2023春闘で賃上げを勝ちとろう！